

国民春闘決起集会
日時 1月24日(火)
19時開会
場所 なかのセロ
大ホール

E-mail lapaz@chihyo.jp
URL http://www.chihyo.jp

TOKYO

はたらく仲間

237

2023年1月15日
(毎月15日発行)発行 東京地方労働組合
評議会(東京地評)

定価 1部40円(送料別)

〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10
東京労働会館

TEL 03(5395)3171

FAX 03(5395)3240

2023年 生き生きと働ける社会の実現をめざし 職場・青年・地域と手をたずさえ組織の飛躍を



新型コロナウイルス感染拡大は、終息が見通せないまま

ま4年目を迎えることになりました。WHOによれば、世界全体では1週間あたり(昨年12月4日現在)前週比で感染者が3%減、死者数は17%減となっていますが、日本の死者数は6%増の106

春 労働組合の真価が問われる一年に

矢吹義則

東京地評議長

ば、世界全体では1週間あたり(昨年12月4日現在)前週比で感染者が3%減、死者数は17%減となっていますが、日本の死者数は6%増の106

国は臨時国会で感染症法を改正しました。今やるべきは、医療機関に罰則を求めることではなく、病床の確保、少なすぎる医師、看護師などの医療人材を十分に確保することや検査体制の拡充をいきたいと思います。



「#労働組合最強説」をテーマに宣伝(22年11月 原宿駅)

「#労働組合最強説」をテーマに宣伝(22年11月 原宿駅)



女性センターは昨年度、女性が働き続けられる職場・社会をめざして、最低賃金1500円にむ

東京地評女性センター常任委員 菊池友里

私たちの大切な組合だからジェンダー平等の視点を求めたい

けた団体・個人意見書運動、行政への要請、学習活動に取り組んできました。ジェンダークリアファイルを作成し、活用を呼びかけています。コロナ禍で非正規労働者、特に女性労働者が大きな打撃を受けました。

政府・財界主導の政策で非正規労働者が増やされ、雇用の調整弁にされてきたことが原因です。全労連女性部と一緒に取り組んだ実態調査によると、女性労働者の2大要求は「賃金増」と「人員増」。今の人員体制では本来持っている権利をなかなか行使できません。そもそも女性の賃金は男性と比べて低すぎます。そして家事・育児などに費やす時間がまだまだ多い女性労働者にとって、賃下げなしの労働時間短縮は必須です。生活時間を取り戻すためにも、この問題は議論していく必要があると感じています。女性活躍推進法改正で301人以上の事業所で男女の賃金格差の公表が義務付けられました。職場でも活用していきたいと思っています。突発的に休まざるをえない状況に対応できる人員体制や賃金増、均等待遇、ハラスメント撲滅等、女性労働者が働きやすい職場は誰にとっても働きやすいはずです。ジェンダー視点にたった労働運動が求められます。そして平和でこそ私たちの権利も守られます。



憲法を生かす社会に転換を(三役会議にて)

私は、今年も学んで行動に合言葉に、いきいきと働き続けられるジェンダー平等の社会、安心して暮らせる平和な社会の実現のために仲間を増やして取り組みます。

「笑顔のレシピ」が詰まっています。23年1月、家族が一人増えます。1か月の間の育休をとる予定ですが、職場の仲間迷惑をかけるなにか心配もあります。誰もがもっと当たり前に権利を行使できる職場・社会になればいいと感じます。「笑顔のレシピ」が広まって欲しいです。

今年4月から月60時間を超える時間外労働に対して50%以上の割増賃金率が適用され、あらためて働き方が見直されます。誰もが明るく元気に就労できる職場づくり、そのキーワードは「労働組合」と「ジェンダー平等」にあります。

東京地評青年協議長・都教組青年部部長をしてる木所聡です。2022年を振り返ると、仕事と子育て、そして労働組合活動の3つに全力投入した1年でした。組合活動の面では、都教組青年部で学習会を主催しました。東京地評青年協を中心とした「東京ジャック」では、実行委員長を務め、組合に加入していない青年が集う原宿駅で、組合の魅力を訴えました。

組合活動の面では、都教組青年部で学習会を主催しました。東京地評青年協を中心とした「東京ジャック」では、実行委員長を務め、組合に加入していない青年が集う原宿駅で、組合の魅力を訴えました。

生にあがった時、疲れ果てている教員ではなく、余裕があつて温かく、笑顔あふれる先生に教えてもらいたい、いまは思っています。

の仲間伝えたい。組合に入らず、がむしやに働いていたかつての自分と同一ような教職員仲間、「もっと子

どもを守る働き方と、笑顔に暮らすための権利があるよ」と伝えたいです。私がそれを知れたのは組合でした。労働組合には

子どもを守る働き方と笑顔のレシピを広めたい



礪川(れきせん)マラソン完走証を手につく木所聡さん

「笑顔のレシピ」が詰まっています。23年1月、家族が一人増えます。1か月の間の育休をとる予定ですが、職場の仲間迷惑をかけるなにか心配もあります。誰もがもっと当たり前に権利を行使できる職場・社会になればいいと感じます。「笑顔のレシピ」が広まって欲しいです。